

# 触れて感じる漆

クラフトゼミ

a2201012 小林眞理子

## ・研究概要

二年間で学んできた漆の技術を用いて、新しい漆の表現方法を考える。

## ・背景と目的

私は短大で二年間漆を学んできて、実際に漆に触れてモノをつくり、様々な作品を見てきた。クラフトゼミに入るまで漆に関してほとんど知識がなく漆器というイメージが強かったが、様々な技法があり、漆器以外でも漆の見せ方は色々あるのだと思った。また、一つの作品を作り上げるのに長い時間と手間がかかる漆はとても大変な作業が多く失敗することもあった。しかし、漆とは一つの作品に対して向き合っている時間が長い分、想いをこめて作りあげることができるのではないかと思うようになった。

そして、県展に向けて作品をつくらうとしている矢先に東日本大震災を経験した。あの震災の中で必死に毎日を過ごしていたが、テレビで流れるニュースを見て誰かのために自分は在りたいと思うようになった。このように思ったことは震災がなければ強く感じることはなかったと思われる。しかし、1年後・10年後と時が経つにつれてきっと忘れていってしまうのだろうと思うようにもなった。

漆を学んでいた時期に震災を経験して感じたことを漆で表現し残そうと考えた。また、漆の様々な表現の仕方を知ってもらいたい。触れて分かる漆の良さを感じてもらいたい。かねてより、挑戦しようとしていたパズルで表現しようと考えた。パズルにしたのにはこう在りたい自分をつくっていくという決意もこめられている。

## ・制作工程

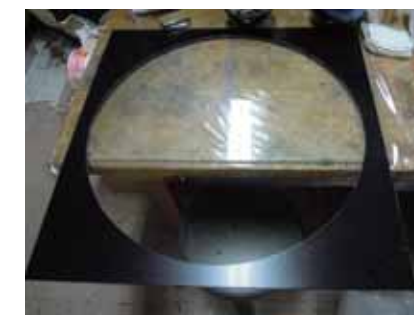
- |                |                |
|----------------|----------------|
| パーツ・丸枠         | 背景板            |
| 1、デザイン・サイズ決定   | 1、木地の切り出し      |
| 2、木地の切り出し      | 2、ステンレスシートを貼る  |
| 3、固め           | 3、研磨           |
| 4、パーツのみ磁石をはめこむ | 4、プライマーによる下地処理 |
| 5、蒔地           | 5、ウレタン樹脂による下塗り |
| 6、固め           | 6、黒呂色漆塗り(3回)   |
| 7、錆            | 7、加飾           |
| 8、下塗り          |                |
| 9、追い錆          | 額縁             |
| 10、中塗り         | 1、木地の切り出し      |
| 11、加飾          | 2、固め           |
| 12、摺り漆         | 3、摺り錆          |
| 13、胴擦り・磨き      | 4、数回塗り重ねる      |



木地の固め



磁石のはめこみ



丸枠



下地付け



塗り・研ぎ



加飾

## 感想・考察

卒業制作をする上で大変だったのが、計画的に作業を進めることであった。毎年行われている県展が私たちの年では行われず、絶対的な期限付きでしかも大きな作品を作るのは卒業制作が初めてであった。そのため、時間配分がうまくいかず、気持ち的にも焦ることが多かった。漆は一つのモノを作るのに長い時間をかけるからこそ良いものになるのだと実感している。

制作の段階ではまず、下絵を考えるのに苦労した。どのような表現の仕方したら良いのか、どのように漆を見せるか、とても考えさせられた。一番苦戦したのがパーツの数が多かったことだ。木地を切り出し、下地・塗りをすべてのパーツに施すのには非常に時間がかかった。また、パーツ一つ一つに磁石をはめこんでマグネットのようにしたが、どの程度の磁力の磁石にするか・下の板に何の素材を使うかもよく考えて選んだつもりだった。しかし、塗り重ねていくとパーツ自体の重さと磁石の磁力が変わってしまったので、磁石はもっと強い磁力のものにすれば良かったと思う。

卒業制作でまだ使ったことのない技法を経験することができたので良かった。クラフトゼミに入ることがなければ知ることがなかった漆の魅力を知ることができ、このことは私自身にとって大きなプラスだと思っている。

二年間漆を一から学んできたが、漆を通して様々なことを身に付けられた。今後、漆に触れる機会がなくなってしまうとしても、この二年間で学んだことを忘れないでいきたいと思う。